

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ひらお保育園【稲城市】

活動期間：2025年11月7日

テーマ①【色々な感触に触れる】つぼみ(0歳児)

テーマの設定の経緯：

- ・普段から、春雨や寒天など感触遊びを取り入れていたが、積極的に関わる子や苦手な子など様々な反応する姿があった。
- ・足育の研修を受け、足の裏から刺激をたくさん経験することの大切さを学ぶ。そこから、クラスで出来ることはなにか、月齢や発達にあった遊びは何かを話し合うようになった。
- ・もともとクラスで作っていたセンサリーマットを改良して、足裏の感触や子どもがどう関わるのか活動を計画することにした。

探求活動の実践

活動：センサリーマットで遊ぼう

環境をデザインする：

準備したもの・環境設定

アクリルスポンジ、洗濯のり+ビーズ、米粒ビーズ、食器スポンジ、人工芝、ポンポンボール、プールスティック、ペットボトルキャップ、モール、木工用ボンド、ジョイントマット、養生テープ、ガムテープ、ジップロック

活動内容

- ・センサリーマット(ジョイントマットで作成)をつなげて、床に設置する。以前設置した際、剥がしたり、裏返すことが遊びになり、感触遊びを十分に行なえなかったため、今回は養生テープで床に張り付け、十分に感触を楽しめる環境を意識して設定していった。
- ・センサリーマットで子どもたちが自由に関わる姿を見守る。



子どもの様子

- ・すぐに触り始める子ども少し離れた場所から様子を見ている子もいる。まずは人差し指で触り、徐々に手のひら→両手→足で踏んでみると子どもの姿も変わっていった。遠くから見ていた子ども、遊んでいる様子を見て、少しずつ近づいて覗いたり、手を伸ばしていた。
- ・洗濯糊の中にビーズが入っているマットでは、指でビーズをつまもうとしたり、動かしている。十分に手で感触を楽しんだ後は、叩いたり、上に立ったり様々な関わり方をする姿があった。



振り返りをふまえた気づき

- ・いろいろな素材を手や足を使って確かめ遊んでいた。
- ・『なんだろう』『さわってみよう』とする子どもの姿があった。子どもが好奇心を持って関わった。環境設定も良かった。
- ・活動に入る前に職員の中で、『声掛けを少なくして、見守ろう』と話をしてから活動した。そのことで子どもの心も自由になり、自分から関わる姿があった。構えていない子どもの姿が良かった。声掛けについて改めて考えてみようと思った。
- ・苦手な子ども、好奇心を持って見に来る姿があった。触らなくても、その子なりの関わりを見れてよかった。
- ・いつもはしない高這いや這い這い、片足だけでマットに乗ってみるなど自分のペースで遊んでいた。
- ・一度マットの上を歩いた時は、キャップの上を歩いていたが、二回目はキャップを避けて歩いていた。五感で感じたことで、自分で考えておこなった姿だと感じた。
- ・米袋や、洗濯のりとビーズの袋が人気だった。感触だけではなく、視覚でも変化がわかるものが良かったのか？次回の活動につなげていく。